

長期の歴史を考えるHAELE-9：講演会 高島正憲「前近代賃金史研究の現在： 『賃金の日本史』を執筆して」



天正年間古地図（香川県香西町役場『香西史』香川新報社、1930年、所収）

2023/11/11

参加登録は下記にてお願い致します。ZoomのURLをお知らせ致します。
<https://forms.office.com/r/axiXgui926>

14時～16時：Zoom ハイフレックス（高松会場：香川大学）（詳細は村山までお問い合わせください。）

日本の大学で、続々とデータサイエンス学部が登場しています。AIへの挺入れも含めて、人材供給がめざされているからです。データサイエンスは定量データだけではなく定性データも利用することができるようになり、独立した学問分野として定着しました。しかし、歴史学の分野ではその壁は依然として高く厚いと思います。さらに、歴史家が理解するデータと物理学者や数学者あるいは理学者が理解するデータとは内容が異なるかもしれません。

経済史の分野では数量経済史という領域が確立しています。他方で、数量「環境史」という表現には違和感があります。それは、自然科学系の分析と表現においてその多くが表象できる環境が対象にも関わらず、環境史研究が極めてナラティブな研究領域となっているからです。

この点、現在の日本の数量経済史研究の若手のリーダーである高島正憲氏（関西学院大学）によって、一般向けに書かれた日本の長期数量経済史研究『賃金の日本史：仕事と暮らしの1500年』（吉川弘文館、歴史文化ライブラリー575、2023年9月）を題材に考えてみたいと思います。今回のHAELE-9は、同氏による講演会を用意しています。当該の専門分野以外の方々、学生、また、フィールドワークを中心に研究を進められて来たの方々など、どうぞ気楽にご参加ください。

本研究会は、科研B(20H01523)/同(23H01661); JSPS Core-to-Core Program; JSPS/MESS Bilateral Programの支援を受けています。

問い合わせ先：村山聡, 香川大学名誉教授 Living Spaces Project, ICEDS, Kagawa University
Email: murayama.satoshi@kagawa-u.ac.jp